

認知や発達の特性に応じた学びの充実実証研究事業

学びの改革支援課
特別支援教育課

1 目的

認知・行動・情緒など、発達に特性があり、学びづらさを抱える児童生徒の学びを充実するため、特性を包み込む授業のあり方や個々の特性を把握するアセスメント法、特性に応じた教育方法について実証的に研究することで、誰一人取り残されない学びの環境を構築する。

2 現状と課題

- 公立小中学校は、学級内の児童生徒全体への統一的な指導となっていることが多く、一人ひとりの特性に配慮した教育は十分にできていない。
- 発達障がい等の多様な特性を持ち、通級指導教室での指導を受けながら通常学級で学ぶ児童生徒が増加。
- 指導方法や教材の提案と一体化したアセスメントツールがほとんど無く、具体的な支援に繋がりがづらい。

3 目指す姿

- 様々な特性を持つ児童生徒がいることを前提に、通常の学級においてすべての児童生徒が学びやすい授業環境を整備。
- 義務教育のできるだけ早い段階で、一人ひとりの認知等の特性を把握し、その特性に応じた教育を実施。
- 通級指導教室と在籍学級（通常の学級）の連携を強化するとともに、それぞれの教室において、学びづらさを抱える児童生徒に配慮した学習環境を提供。

4 事業内容

(1) 推進協議会等の設置

- ① 推進協議会の設置（有識者、学校現場の実践者などで構成）
- ② 通常学級における学びの環境に配慮した授業のあり方研究グループの設置
- ③ 多様な認知等の特性を把握できるアセスメントの活用、特性に応じた教育の実証研究グループ設置

(2) 小中学校での研究・実証（授業研究・アセスメント・教材提案ツールの活用等）

- ① 学びの充実研究校（通常教室）5校
- ② アセス実証校（通級指導教室）5校

* 学びの充実研究校とアセス実証校を兼ねている学校が3校あるため、計7校となる。

〈スケジュール（予定）〉

令和5、6年度に小・中学校（通常学級や通級指導教室）で研究し、研究成果を普及させていく。

	R5	R6	R7以降
通常の学級	事業推進協議会 授業あり方WG、アセスWG、研究校での実証研究（2年間）	➔	➔ ・更なる検証 ・成果の横展開 (市町村)
通級指導教室	研究校での企業連携によるアセスメントツール実証研究（2年間）		